

平成 20 年度 法科大学院（法務研究科）既修者認定試験

刑 法 問 題 紙

B 日程

平成 20 年 2 月 24 日

16 : 00 ~ 17 : 30 (90 分)

(120 点)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、問題を開いてはいけない。
2. 刑法の問題紙は 1 ページのみである。
3. 解答用紙は、問題 1 と問題 2 の 2 枚である。解答用紙の追加は認めない。
4. 解答用紙は 2 枚ともかならず提出すること。
5. 監督者の指示に従い、すべての解答用紙に受験番号と氏名を記入すること。
6. 解答はすべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
7. 試験終了まで退室してはいけない。

北 海 学 園 大 学

問題 1 (60 点)

乙は、内妻甲とその長女 A (3 歳) と同棲を始めたが、A に対するせっかみを繰り返していた。甲は、一度、乙のせっかみを制したことがあり、そのときは、乙は暴力を止めたものの、甲の頭や肩を手拳で殴ったため、甲の身体にはあざができた。

そして、事件当日、乙は、A が子ども部屋のおもちゃを片付けないので、腹を立てて大声で怒鳴りつけたところ、A が無言で乙をにらみつけたことから、ますます腹を立て、平手で A のほおを数回殴り、A はその場に手をついて倒れ込んだ。乙は、「どうしてお前は俺の言うことを聞かないんだ。」と怒鳴りながら、さらに手拳で A の頭を数回殴ったところ、A は、突然短い悲鳴を上げてその場に倒れ、意識を失い、ほどなくして死亡するに至った。

一方、甲は、このとき台所で夕食の支度をしており、乙の怒鳴り声や、A のほおをたたく音を数回聞いたが、乙の子どもを妊娠中であり、乙から暴力を振るわれるのが嫌で、乙のせっかみを見て見ぬ振りをしていた。ところが、それまで聞いたことのない A の悲鳴を聞き、あわてて子ども部屋に行ったところ、すでに A は乙に抱えられ身動きしない状態であり、間もなく死亡した。

甲の罪責について検討せよ。

問題 2 (60 点)

甲は、A 女の自転車の前かごからバッグを窃取したが、これに気づいた A に左手をつかまれたので、それを振り払ったところ、A は路上に転倒した(第 1 暴行)。その際に、甲は、付近に停めてあった自己の自動車に乗って逃走しようとしたところ、A が同車両の前に立ちだかって止めようとしたので、A に同車を衝突させて A を路上に転倒させた(第 2 暴行)。その結果、A は傷害を負ったが、傷害の結果は第 1 暴行、第 2 暴行、いずれの暴行から生じたものか明らかではない。

甲の罪責について検討せよ。